

市長懇談会での意見概要

市長と語ろう

～ どう使いますか？ みんなの予算 ～

【開催会場】

コミセン高齢者大学

高齢者大学あかねが丘学園

明石シニアカレッジ

【開催期間】

平成24年5月9日(水)～平成24年11月21日(水)

明石市

◎市長懇談会の事前アンケートおよび市長懇談会当日にいただいた意見数

①事前アンケートでの意見数	2,522 件
（内訳） 個別事業について	2,159 件
自由意見	363 件
②懇談会当日の意見数	394 件
（内訳） 個別事業について	217 件
自由意見	177 件
<hr/>	
意見総数	2,916 件

◎事前アンケートおよび懇談会当日にいただいた主な意見

○個別事業について

1 高齢者への優待乗車証の交付

- ・JRや山陽電車の方が利用しやすいので、そちらも優待乗車証の対象にしてほしい。
- ・買物や病院へ行くのに利用しており、高齢者が外出するのに欠かせない。外出の機会が増え、健康増進にもなる。
- ・高齢者の自動車免許返納を促すことになり、交通事故を減らすことができる。
- ・お金を持っている高齢者もいるので、所得制限を設けたり対象年齢を上げたりしてはどうか。
- ・利用しない人も多く、市負担額も大きいので、選択制にすれば良いと思う。
- ・タクシー券は利用しない人が多く、全く不要で廃止すべきである。車があれば全然使わないし、3月の有効期限にまとめて使う人も多い。
- ・ばらまきそのものであり、高齢化が進む中では廃止すべきである。若い世代に回すべき。

2 高齢者ふれあい入浴への助成

- ・健康増進や地域振興、コミュニティづくりのために今後も継続してほしい。
- ・自宅にお風呂のある人は対象から除外する。
- ・本人にいくらか負担してもらうか、隔週での助成に変更してはどうか。
- ・浴場も少なく利用者は限定的で、ふれあいの場にはなっていない。
- ・健康増進や外出の促進に直接寄与しているとは思わない。
- ・市が優遇せず、入りたい人が自己負担で入浴すれば良い。

3 敬老金の支給

- ・敬老の意は表すべきである。支給だけでなく絶えず見守る方向でお願いしたい。
- ・77歳はまだ若いし、平均寿命を下回っているので、対象年齢を引き上げるべきである。
- ・お金ではなく、記念品にしてはどうか。（手作りの品）
- ・高齢者優遇は減らし、子どもや少子化対策に費用をあてるべきである。

- ・ばらまきは必要ない。効果は期待できない。

4 敬老会の開催

- ・参加者の方と話し合いの場を持つことは、お年寄りの楽しみになる。
- ・参加率は低いが、交通手段が無いこと、足が不自由との理由から、参加したくてもできない人が相当いるので、それを解消する方法を考えてほしい。
- ・参加率が低いので、敬老会にこだわらず各地域敬老の趣旨を生かした行事を、市の助成も行いながら自主的にしてもらってはどうか。
- ・高齢者はどんどん増えているので、高年クラブの強化など各地域にあった事業への活用の方が望ましく、敬老会は廃止にする。
- ・参加率 20%と低く、開催する必要はない。

5 高年クラブへの支援

- ・高齢者のボランティア、スポーツの推進等を図ることで、高齢者の地域活動参加を促し、地域ふれあいの仲間作りにもなる。
- ・会員数の割にスポーツ大会の参加者が 5%ではさびしい。小規模な大会やクラブ活動にも費用を出して元気な高齢者の多い明石市を目指して欲しい。
- ・高年クラブが無い自治会もあるので、現況をよく調査し、皆が利用できるようにしてほしい。
- ・これから高齢者が増えると、助成額がどんどん増える。また、助成金の使途も不透明。団体への支援は縮小で良いのではと思う。
- ・自治会組織のない住民には恩恵が無いので廃止で良い。

6 高齢者のはり・灸・マッサージ施術への助成

- ・病気を患って治療費を公費で払うよりも、予防的な面で公費を使う方が効率的である。
- ・75歳以上にするなど、縮小・廃止の検討をしてはどうか。
- ・利用者数が少ないので縮小、廃止すべきである。
- ・一部の特定の人のみを対象とした助成であり、また高齢者の健康保持、外出の促進にはならない。
- ・健康保険の適用で充分である。各医院に行けばできることなので、わざわざ助成の必要は無い。

7 高齢者肺炎球菌予防接種への助成

- ・高齢者の死亡の要因である肺炎から一人でも多く助けるため、助成額の増額を推進してほしい。
- ・医療費削減という効果もあるので、高齢者 65 歳以上に拡大してほしい。また、所得に応じて助成を多くしてほしい。
- ・高齢者肺炎球菌予防接種の大切さや、助成のあることも知らない人が多いと思う。広報で拡充・推進をしてほしい。
- ・病気予防の面で公費を使う方が効率的と思う。
- ・若い人達の負担になる。

8 高齢者配食モデル事業の実施

- ・ 独居老人が増加しており、健康的な食事提供や安否確認の有効な手段となる。
- ・ モデル状況を踏まえ、有効な施策を実施してほしい。また実施地域も拡大してほしい。
- ・ 高齢者の孤独死が絶えないので、それを防ぐ一助となる。今後ますます社会的見守りや支援施策が必要である。
- ・ 大切な事業であるが、民間に任せていいと思う。
- ・ 各自が工夫するもの。個人で負担すべきだと思う。

9 がん検診費用の助成

- ・ がんの早期発見、早期治療により市民生活も安定する。
- ・ 検診による早期発見は医療費削減にもつながる。
- ・ 助成額を増やし、自己負担を軽減してほしい。
- ・ 現役世代であれば、助成額を減らしてはどうか。
- ・ 受けたい人が受けるべきで、受診料も自己負担にすべきである。

10 幼稚園の教室を活用した保育所分園の開設

- ・ 待機児童の解消を図り、若い親が働きやすくなる。
- ・ 安心して子どもを預けられる環境を作ること少子化対策になる。
- ・ 子育て環境が充実したまちになれば、若い市民が増え、人口増加につながる。
- ・ 早急に開設すべきで、他の地区の幼稚園でも実施してほしい。
- ・ 少子高齢化が進むので、空き幼稚園を利用して、お年寄りとの交流の場とすべきである。

11 認可保育所の巡回警備

- ・ 少子化傾向に歯止めをかけるために必要である。
- ・ 子どもが安全に保育所に行けるようにしてほしい。
- ・ 地域の高年者クラブなどに委託することで、経費の低減と高齢者の健康増進を図る。
- ・ ブロックに1名の配置で効果があるのか疑問である。
- ・ 巡回警備で安全が確保できると思えない。

12 木の根学園ひまわり工房・たんぼぼ工房の定員増

- ・ 障害者支援のために増員しても良い。

13 ふれあいフェスティバルの開催

- ・ 地域の幅広い世代との交流、地域力を強め地域に無関心な人を少なくするのに役立つと思う。
- ・ 色々な世代の方と交流できて良かった。高齢者や障害者の方が元気になれば、医療費も削減できる。
- ・ 健常者と障害者との交流があり、福祉について関心を深められる。障害者が社会参加を経験する良い機会にもなる。
- ・ 参加したが市が助成するほどのものではない。参加団体の自主運営でできるのではと思う。

- ・このような専門的なイベントはそれぞれ専門業者に移管するほうが良い。

14 がんの在宅療養体制の整備

- ・3人に1人ががんにかかる時代であり、がん患者の療養環境を整えることは急務である。
- ・高齢化と共にがん患者が増えると思われるので充実すべきである。
- ・長期療養者は例外なく自宅へ帰りたいとの気持ちが強い。せめて自宅に居るといった心の安らぎを与えたい。
- ・最後は自宅でという人達が増えている。当人も家族もそれを望むが、体制が整っておらず、断念していると思う。

15 学校等への警備員配置

- ・児童の安全のために必要である。
- ・必要であるが、警備員の人数や警備時間を減らし、経費削減を図る。
- ・警備員の常駐はあまり効果が無いと思う。
- ・スクールガードやPTA、教職員で対応すれば良い。
- ・高齢者の方などのボランティアのできるので、警備員は不要である。

16 中学校給食導入に向けた準備

- ・朝食を抜くなど、栄養が不十分な食事を摂取する子どもが多い。成長期の子どもには、栄養バランスのとれた食事が必要なので実施すべきである。
- ・共働きの親が多く、親の負担軽減となる。食育の充実や少子化対策にもつながる。
- ・どの方式とするかは、検討委員会やパブリックコメントを活用して大いに議論した上で、早期に実施してほしい。
- ・子どもを育てるのは親の責任であり、親が弁当を作ることで愛情や親子のつながりが生まれる。また、親へのありがたみもわかる。
- ・方式や給食費未払い問題があり、給食実施に疑問がある。食育の推進に役立つと思えず、各家庭がすべきである。

17 地域ぐるみの子どもの安全対策の推進

- ・子どもを守る環境を作るためには、もっと予算を増やすべきである。
- ・地域の子どもは地域で守ることは大切であり、スクールガードの活動などもっと地域にPRする。
- ・子どもの事件が増えているので、子どもの安心安全のために推進する。
- ・少子化対策のために、子どもが安全なまちづくりを推進することは急務である。
- ・他の安全対策推進事業と連携することで、予算を縮小することは可能だと思う。

18 文化財の保護と活用の推進

- ・近隣自治体の文化財保護状況と比較しあまりにも劣っている。もう少し目を向けていくべきである。
- ・市内の文化財のある箇所には、説明板がある所が少ないし、古くなっているものもある。

- ・多くの歴史的文化を持つ明石のまちを、いつまでも伝えていくことが大切であり、まちを活性化する材料となる。
- ・市民が愛着と誇りを持てるよう、文化財の活用と公開についてPRが必要である。
- ・保護や活用を推進することの必要性は低いと思う。

19 市民図書館の開設準備

- ・新しい図書館には明石市出身者で各分野において活躍された人物の著書や研究物を置くコーナーを設けてほしい。
- ・利便性の高い場所に充実した図書館があることは、年代を問わず市民に有益だと思う。
- ・現在の図書館は、県立図書館とも並んでおり、活用に便利である。
- ・今の場所で良い。緑に囲まれた環境面からも他に移す必要は感じられない。
- ・利便性を良くするのではなく、利用率が高くなるよう環境を充実させることが先決である。

20 明石薪能（たきぎのう）の開催

- ・明石の文化事業として誇れるものである。昨今こども仕舞も加わり市民の文化レベル向上に資すると考えられる。
- ・薪能をもっと市民や全国区で宣伝して欲しい。もったいない。
- ・文化的な行事としては、市民の参加は少なく、費用対効果は小さい。何年かに1回にしては。
- ・個人の趣味のようなものに公金を使うのはどうか。
- ・伝統文化の継承と言われる中、やはり裕福世代の趣味の範囲内である。

21 アスピア明石駐車場の管理運営支援

- ・駐輪場も安価にして拡充すべきである。
- ・中心市街地の駐車場としても、助成金が多すぎる。
- ・民間の知識、ノウハウを入れて、変えてほしい。原価意識や、利益を絶対上げるといような意識が本当に薄いと思う。
- ・駐車場運営は民間に任せる、もしくは売却する。
- ・公共の駐車場は他にもあるのに、アスピアだけ援助するのはおかしい。

22 漁業協同組合への支援

- ・明石は魚のまちとして全国的に有名。水産業の経営安定化を進め、市を活性化してほしい。
- ・漁業組合と市が一体になり、海峡都市にふさわしいイベントを開催し、市外住民を取り込む。
- ・組合、商店街等への補助は自立に反する。特定の事業者に支援すべきではない。
- ・なぜ漁業協同組合だけの支援なのか、理由が明確でない。協同組合は他にも多々ある。
- ・海は自由に使えるだけでも支援として十分。農家は田畑の固定資産税も払っている。

23 ため池の防災対策の推進

- ・ 田んぼ、畑が少なくなってきた。国、県からの補助金で大半がまかなわれている。水利組合にも財政的余裕があると思う。

24 商店街活性化への助成

- ・ 商店街が活性化するように積極的な援助が必要である。
- ・ 明石には特徴ある商品や産物があるので、市外から人を呼び込む策を検討してほしい。
- ・ 市の助成になじまない。商店街独自で取り組むべきものだ。
- ・ 具体的成果が分かりにくく、あまり意義がないように思う。

25 住宅リフォームへの助成

- ・ 助成額や募集回数を増やしてほしい。
- ・ 市内産業の活性化など、経済波及効果大きい。
- ・ 高齢化や節電のため、家のリフォームは必要である。
- ・ 全ての住民が受けられず不公平である。私有財産なので助成なしでリフォームすれば良い。
- ・ 消費の喚起や市内産業の活性につながると思えない。

26 明石製品のブランド化

- ・ 税収の増加など収益拡大が期待できる。
- ・ 当事者が工夫、努力をすべきものであり、必要ない。

27 B-1 グランプリの誘致

- ・ 明石焼きなど明石の有名な商品をもっとPRしてほしい。全国的に広めるため、各種メディアを活用する。
- ・ グランプリ誘致による波及効果を期待すべきであり、市の活性化につながる。
- ・ 明石へ誘致するほどの意味は無い。効果は疑問である。
- ・ 公園内で似たような行事が多く、地域のフェスティバルで紹介できるので必要ない。

28 協働のまちづくりの推進

- ・ 協働のまちづくりは市民の自立や自助努力を促し、一体となったまちづくりの一助になる。
- ・ まだまだ行政に任せておけば良いという意識の市民が多い。もっとPRして推進すべきである。
- ・ 財政負担低減のため、市民でできることを推進する。また、増加する高齢者を人材として活用し、まちづくりを推進する。
- ・ 中間支援組織の設置は必要ない。いろいろな組織があり、複雑化しすぎている。
- ・ どんな効果があるのかよく分からない。具体的中身もよく見えない。コミセン活動で十分である。

29 コミュニティ活動の推進

- ・高齢者教育をテーマにしたコミュニティ活動を推進するためには拡充を図ることが必要である。
- ・もう少し予算を縮小しても十分活動ができると思う。

30 再生資源集団回収への助成

- ・資源の有効活用やごみの減量意識普及のため、団体への助成は効果あり。
- ・子どもも大人も参加しているので、減量意識やマナーの普及に役立つ。
- ・再資源活用で環境も良くなり、市の美化にも役立つ。ごみ収集予算削減にもなる。
- ・費用対効果が不明である。
- ・活動用具の助成は必要ない。再生資源の回収は当然の事で、それぞれの家庭ですれば良い。

31 太陽光発電設備設置への助成

- ・原子力発電に代わるクリーンエネルギーの確保は必要であり、拡充すべきである。
- ・太陽光発電の推進モデル地区でもつくり、明石市全体で取り組むべきだと思う。
- ・市が率先して市役所や小中学校の屋上に発電パネルを設置し、PRしてほしい。
- ・設備設置への助成も必要だと思うが、現時点では地球温暖化対策についての市民への教育が大切である。
- ・申込による抽選で対象者が限定されて不公平である。

32 人権意識の啓発

- ・子どもの頃からの共生教育が不十分なため、頭で分かってもしっかりその場の対応に戸惑う。高齢者や障害者も含めた人権意識の啓発は必要である。
- ・大人への人権教育を縮小し、子どもおよび教職員への教育を強化する。いじめが後を絶たず犠牲者も出ている。
- ・人権問題の大切さは分かるが、出席者の人数集めに苦慮していると感じる。毎回同じようなテーマなのでマンネリ化している。
- ・お金をかけても、効果が不明である。冊子でなくプリント類にし、カレンダーは1枚ものでも良い。
- ・学校では人権問題がテーマのテレビ観賞もあるし、家庭でも話をするので啓発活動は不要である。

33 災害用備蓄物資の充実

- ・現在の費用で大災害に対応できるのか。もう少し増やしてはと思う。
- ・全住民に公平に配布できるだけの備蓄が必要である。
- ・可能な限り備蓄物資の充実を図るべきだ。
- ・南海・東南海地震を想定した対策強化を進めるべきと思う。
- ・備蓄の充実よりも、各個人の備えを充実するよう啓蒙することが大事である。

34 ハザードマップの修正・配布

- ・台風・水害・津波・地震の規模による避難場所の地域別マップを作成すること。電柱に標示の標高についても地域の地番等表示することで分かりやすくしてほしい。

35 道路の整備

- ・子どもの通学路など危険な箇所が多いので、安全確保の点から検討してほしい。
- ・歩道の整備がされていないので、高齢者や障害者も安心して歩けるように整備する。
- ・狭い道が多く広げて安全にしてほしい。側溝にふたが無い道路もあるので、鉄板をかぶせ安全に通行できるようにしてほしい。
- ・自転車に起因する事故が多い。運転マナーが悪いこともある。道路の整備と併せて歩道、自転車道の整備もする。
- ・毎年あちこちで工事をしている。工事を計画的、効率的に行い、費用を縮小すること。

36 市営住宅の建て替え

- ・市営低家賃住宅に若年層を積極的に入れるべきである。
- ・生活の安定と貧困者（高齢者）の救済を図るために必要である。
- ・市内には民間の空き家住宅や高齢者入所施設、県営住宅があるので、市税を投入しての建て替えではなく、借上げ補助などの代替案を検討する。
- ・明石市の将来の人口減をふまえ、建て替えはやめるべきである。
- ・老朽化した市営住宅は取り壊し、土地は民間に払い下げる。

37 コミュニティバス（たこバス）の運行助成

- ・高齢化が進み、免許返納者が増える。また、高齢者が運転して事故を起こさないようにするため拡充すべきである。
- ・公共交通が不便な地域や、高齢者、交通弱者にとっては必要である。
- ・1時間に1本ではなく2~3本位に増便してほしい。道路事情や利用状況をよく調査し、運行路線を増やして利便性向上を図ってほしい。
- ・利用者が少なく、公費負担が多大。不採算ルートは廃止するか、減便すべきである。
- ・年間利用者が少ない状況なら、民間にまかせるべきである。
- ・家の近くに路線が通っていないので便利が悪い。1回も乗ったことがない。

38 菊花展の開催、菊栽培の普及

- ・明石を花の町にして、明るい健康的なまちづくりを望む。
- ・毎年楽しみにしているが、もっと民間の力を借りて市の費用を抑えるべきだと思う。
- ・愛好者のためのものであり、管理運営を民間会社に委託するのはムダ使い。愛好者個人でやるべきである。
- ・来場者20万弱では市が力を入れるほどの事は無い。支援者より寄付を募る。
- ・文化的施策も大事であるが、財政健全化を優先すべきだ。

39 公園の整備

- ・公園がたくさんあるのに残念ながら汚いので、きれいにしてほしい。
- ・石ヶ谷公園はこどもの日に多くの人でごった返していたので、同等の遊具を二見海浜公園にも設置してはどうか。
- ・南二見公園に常緑樹の大きな森を作ってほしい。あと、運動場の土を入れかえ、スポーツしてもケガの少ない運動場にしてほしい。
- ・公園のベンチが少なすぎる。
- ・明石公園は、お堀側の樹木が繁り、駅側からの眺めが悪い。樹木の剪定が望ましい。

40 公共交通の利用促進

- ・意見なし

41 住宅の耐震化の推進

- ・地震が多発している現在、耐震診断や耐震改修工事への補助金助成は必要である。
- ・兵庫県南部地震を思い起こし、住宅の耐震化を最重要課題として推進すべきである。
- ・学校等公的設備のみならず、個人住宅の耐震化推進は安全なまちづくりにつながる。
- ・建設年数で分かるので、診断費用の助成は不要である。その分を住宅リフォーム助成に上乗せできないか。
- ・全ての住民に公平さが必要であるが、住宅は私有財産である。

○自由意見

こども関連施策へのご意見

- ・ 少子高齢化問題を言われてから久しいが、安心して子どもを産み育てられるような政策を今までとってきたか大変疑問である。産科・婦人科等の医療に携わる人材の確保とか育成が急務でないか。
- ・ 将来の明石を担う子どもたちの事業が必要だが、その前に明石市で誕生できる赤ちゃんを多くする必要がある。明石の病院に産科が少ない。明石で誕生した人が成長し、市外の大学や職場へ出ていっても「明石がふるさと」という意識を植えつけることが必要である。
- ・ 将来の明石を担う子どもの教育を行うとともに、少子化時代に安心して子どもを産み、女性が仕事をできる社会になるような事業は不可欠である。
- ・ 出産手当を増額する。
- ・ 保育所の増設、保育時間の延長等により社会進出が容易となり、安心して出産・育児ができ、まち、市の活性化へつながる。
- ・ 子ども達の育成に対する予算には大いに賛成するが、体力作りも大切である。公園は各所にあるが、子ども達がのびのびと運動できる、特に小学生くらいの子どものがボール遊びのできる位のグラウンドが少ないと思う。特に私企業造成地は土地の問題がありなかなか難しいと考えるが検討して欲しい。
- ・ 中学校のグラウンドの状態が非常に悪い。雨が降ると大きな水たまりがいくつもでき、3、4日は消えないという状態で、グラウンドが使えなくなる。
- ・ 少子化対策のための事業が必要だと思う。子どもたちのための事業は拡充すべきと思うが、そのために高齢者への事業を廃止していくのはおかしい。健康・福祉は大切にすべきだ。
- ・ いじめの話があるが、両親と同じ目線で子どもを指導することが大事ではないか。そのためには、人材育成、先生の育成にきちっと取り組んでほしい。
- ・ 未来の明石市民につながる子ども達の教育・文化分野をより充実させるよう望む。
- ・ 子ども達に負の財産を残さない。
- ・ 教育委員会等から学校の先生に依頼する事務処理を減らし、子どもに接する時間を確保してほしい。
- ・ 市立小学校で日曜参観を実施してほしい。仕事をしている主婦は、子どもの様子を見る機会がない。もっと働く女性が学校に行けるように工夫してほしい。
- ・ 子ども会に加入していない子どもが、学校で練習して参加する陸上競技大会に出られないのはおかしい。学校の先生が指導し、その敷地内で練習するのであれば、子ども会という枠を外すべきだ。

安全関連施策へのご意見

- ・自助、公助、共助をはっきりと実現させ、自分たちでできる事は何かを市民に求めてゆく。例えばあいさつ運動、スクールガードで安心、安全なまちづくりを求めていくなど。何でも公にしてもらうのではなく、自己責任、自助努力すべき事柄を市民にきっちり示して知らせること。
- ・災害に強い「安全な」まちづくりを推進する。①地域防災公園の整備及び学校施設等の耐震化②ハザードマップの見直し、ため池等の安全策強化。③市民病院の医療体制拡充④消防・救急体制の拡充・救急車両の増設～総合安全対策局の新設による安全施策の横断的・一元的取組みを推進する。
- ・防災の認識が市と市民で異なる。災害によって避難できる場所は異なるのだから、災害にあわせてハザードマップに示してほしい。
- ・災害対策事業を充実する。
- ・安全、安心に関する事業で主に個人では対応できない事項（健康、食、環境、防災）を拡充する。
- ・防災設備にもう少し力を入れてほしい。家の中だと防災無線や広報のスピーカーは全然聞こえない。防災無線などを各家庭に設置したり、防災ハザードマップを作ったりすれば高齢者は助かるので、もう少し予算を注ぎ込んでほしい。
- ・たびたび起こる事件を防止するために、防犯カメラを設置してほしい。ごみ捨て禁止の看板があるところに絶えずごみが捨てられるが、防犯カメラで防げる。
- ・市の健康管理を担う市民病院が独立行政法人になった。その後の状況は右肩上がりでは上がっているのか。それと、市民病院にもう少し良いドクターを入れて、総合病院化するつもりはないのか。市民の健康管理という意味で、市民の安心・安全のために市民病院を立て直してもらいたい。
- ・年金、医療保険の充実を図る。認知症患者の介護を充実する。在宅ケアが論じられているが、無理である。
- ・老人の医療費削減のため、公的スポーツ施設（簡単なもの）を気軽に誰でも活用できるようにし、健康で、医者にかからないようにする。

まちづくり関連施策へのご意見

- ・今ある資源を大いに活用してほしい。税収が増加できるような事業や土地を貸し付けするなど。民間人でも入れて、必ず採算意識を持ってやってほしい。
- ・市民参加による検討委員会を施策の中に取り入れる。退職後の高齢者の中から優秀な人材を発掘、登用し、地域特性を生かした高齢者事業を推進する。予算の分散を避ける。
- ・明石にはいいところがたくさんあり、観光資源も豊富。ただ、昔からアピールが非常に少なかったと私は考えていた。高齢者であっても外へ行きたいという人もたくさんいる。その人のためにも、資料を作り、明石のいいところを知ってほしいし、市長からもアピールをお願いしたい。
- ・明石では様々な楽しいイベントや催しがあるが、告知方法、広報、新聞、タウン紙だけではなく、もっと身近に感じられる告知があれば、より多くの人にも参加してもらえ、活性化にもつながると思う。
- ・今年、加古川検定を受験したが、加古川人が一体となって自分の住むまちを好きになろうとする雰囲気を感じた。明石ではたこ検定がなくなったが、加古川の例を勉強して、明石人が一体となり人口増につなげる等を考えてほしい。
- ・若い人たちが住みたいと思い、住んでよかったと思える市になってほしい。（子ども達を育てやすい等。）
- ・日本以外の国に旅行した時、川沿いや海岸沿いが解放されていて市民の憩いの場所になっている光景を見聞き、どうして明石市にこうした場所が少ないのかと思う。歴史的にみても賞賛されている明石の海岸線という財産を有効活用し、「明石」は「たこ」&「玉子焼き」というイメージを払拭しても良いのではと思う。
- ・まちづくり対応に注力し、住み良いまち、評判の良いまちになれば良い。
- ・公共の建物は数多くあると思うが、屋上がそのままでは非常にもったいないと思う。電力問題が話題となっているが、ぜひ広大なスペースを活用したらどうか。ソーラーなら売電もできるし、自分たちのものにも使えるかと思う。
- ・市の狭小遊休地の活用に積極的に取り組む。子どもや高齢者用の公園や運動場、または地域住民の集う施設を建設し、世代間の交流の場とすべきである。
- ・自治会で西島海岸の清掃をしているのですが、バーベキューの後始末をしない方が非常に多く、困っている。職員の方の意見では、国土交通省の管理下というようなことも聞いているので、利用者の目につくような看板をお願いしたい。
- ・まちづくりのため、今後もっと予算を増やし、JR明石駅、明石公園、天文台、博物館、魚の棚、元フェリー乗り場付近から東の大蔵海岸へ向けて観光をPRし、全国一と言わずも今まで以上に大勢の人に来てもらう工夫を、教育文化分野、産業観光分野で進めてほしい。

- ・商店街の活性化について、魚の棚商店街を元通り魚の店を増やし、従来のような魚の棚として観光に力を入れるべきではないか。
- ・花火大会の再開を。「観光の目玉」と考える。（経済効果。まず阪神間、次に近畿にて有名になるものを。）
- ・高齢者支援は、支援対象を精査する必要がある。個人に対する支援はあまり拡充すべきではない。地域や組織といったコミュニティに支援すべきじゃないか。
- ・高齢者が外へ出て色々なことにチャレンジできる様な事を考えて欲しい。外に出かける機会が増す行事、事業、活動に支援願いたい。
- ・高齢者は行動範囲が狭いと思うので、高齢者向けの無料・割引施設を提供しても、遠方の方は利用できず、近所の人に限られる。そのような設備より、各自治会に集会所（プレハブ・マンション）の支援をしてもらいたい。

その他市政運営等についてのご意見

- ・必要なものには拡充・推進しても良いが、どう使われているのかが不明確な項目に関しては、実態をしっかりと把握して住民が納得できる説明資料（予算と実績を対比）を提供・開示して欲しい。
- ・現代の目安箱を予算化したらどうか。市議会傍聴では不十分に感じられる。市長室直結のFAX、Eメールがあれば多くの市民のバックアップが出ると思う。市長から市民にやって欲しいこともあるのではないかと。高齢者市民の中には何か要求されるだけでなく何かをやりたい、役立つことはないかと考えている人間もいる。
- ・民間でできることは民間で。何でも行政に頼らない、自立した市民への啓発。現在の福祉行政は高齢者に厚く、子ども及び現役世代に薄い。高齢者への諸対策費を少々削って、少子化を解消する方に予算を使ってはどうか。
- ・世の中の流れをまず把握し分析し、方向性を定める。そのためには幅広い年齢層、年代の意見を集約し、市民にとって良い方向になる（人間として幸せ）事業を推進していく。（世間の流れが必ず良いものばかりではないと思う。方向を修正することも必要である。）
- ・民間では、徹底管理や納期短縮といった努力により予算を削減する努力をしている。マスコミによれば、国家予算について、予算が余ると次年度分が減らされるので、年度内に使ってしまおうという。明石市では、予算を少なくした部に対し、次年度は減らすのか、それとも、使い切れと指示しているのか。予算を減らした部に対しては、市長から表彰という制度にすれば、いかに予算を少なくして財政の健全化を図るかとなるのではないかと。
- ・市の財政状況が厳しい今日ですが、今ある事業の廃止はもちろん縮小も難しく思えます。
- ・全体的に一割カットの予算で見直しを行うのはいかがでしょうか。一割カットされる事業は節約の努力をすべきである。
- ・市の歳入を増加させる施策を考えてほしい。
- ・職員が2,000名程度で、10年計画で1割カットを目標としているという話を先程聞いたが、逆にそれは甘いと思う。民間企業では人員整理を2、3年間という短いスパンで取り組む。10年先も市長をされているか、もしくは交代されていたりいろいろあると思うし、ちょっと見通しが甘い。もう少し短縮できれば、人員削減が財政健全化に寄与すると思う。
- ・市職員の給与水準を上げて全国から有能な人を採用する。（少数精鋭で事務効率をアップ。給与水準は全国トップクラスでも良い。）主に企画部門を担当。実務の部門は民間委託も検討。現業部門は民間企業にシフト。ただし災害復旧時の応援義務も課すること。
- ・文化分野に対し民間支援や寄付行為を求められるようにもっとPRすべき。市職員も営業センスを持って取り組んでほしい。

- ・市長も職員も給料を引き下げているが、市会議員の給料はどうなのか。下げなくてそのままなら、市会議員の考え方はおかしい。人員削減は賛成で、もう5人、10人減らしてもいい。今の人数でなおかつ高い給料ということについて、市会議員は財政が大変だとわかっているのか。率先して自らの給料を下げるべきである。
- ・ぜひ条例を再考いただいて、市会議員の数を減らしてほしい。明石は本当に小さなまちですが、31名の市会議員がいる。
- ・長期的には非常に立派なことですが、幸福度日本一のまちを目指すことについて、子ども、安全、地域とただ項目を言っているだけ。日本一というのは一体どういう水準なのか、何がどうなれば日本一か。短期ではなく、長期的な問題だと思う。目標を早く決めて、市民が幸福度はこういうことだと認め、それにお金をつぎ込んでいくことが大事なので、考え方を早くまとめていただきたい。
- ・幸福度日本一ということを掲げているが、いわゆる成長戦略、明石市としての将来像、リーダーとしての方向性が見えてこない。
- ・人間、地域、自然の本来持っている力が十分に発揮できているかどうか。本当に困っている人にきちんと目を向けられているのか。全市民が市民である喜びを享受できる市政が望まれる。
- ・市長には、職員と共通認識を持って職員のやる気を出せるよう、職員がやりたい仕事や、やってよかったと思える達成感を発揮できるようにお願いしたい。国の動向に振り回されている仕事が多いし大変だろうと思うが、そのあたりを職員と一緒に頑張ってもらいたい。
- ・縦割り行政による溝を作る弊害からの脱皮を。責任部局を支援・補完できる体制を。コミュニティと福祉の融合を提唱し、やっと我々が社協を中心に動けるようになってきたが、新たにコミュニティ創造協会を中心にとの発信が有り疑問を持つ。
- ・限られた財政を明石市民ひとりひとりが自覚し、意識をもって生活を営むように、市から情報を流していくことが必要である。ムダを省くための情報、工夫等を紹介したり、協力の呼びかけ等を行う。
- ・市職員が、己の担当する職務の現地に常に足を運び、現状を十二分に把握して対処するように努力する。そのためには市民の希望を十分に吸収する機会を多く作ってほしい。
- ・明石の歴史展に市の職員が来ない。歴史のまちの明石に対してもっと関心をもつべき。
- ・事業を推進するには、何よりもまず行政にたずさわる職員のやる気をもたせることが絶対必要である。予算の執行をあたえられた枠や領域に固執することなく、課題解決には部課組織を超えた議論を活発に行い、職員がやってよかったと思える達成感を味わえるようにやってもらいたい。その中で必要なあるいは不要なお金が出てくるようにしていってもらいたい。
- ・市民全体の利益になる活動に力を入れて拡充推進すべきであり、一個人、一企業の利益になる支援や助成は廃止すべきである。

- ・費用対効果を検証し、重点分野への集中配分を行う。（子育て環境、予防的医療、市民の自助活動促進）。市職員の定員、処遇の民間準拠を基準とする見直しを行う。
- ・費用対効果を十分に吟味する。本当に市民が必要としているかどうか。今最優先して実施すべき事項かどうかなどを判断する。
- ・事業の投資効果の検証を行い、受益者負担を導入する。
- ・助成を行う場合でも、無料にするのは良くない。例えわずかでも利用者負担を取って無駄を減らす。
- ・助成対象者の少ないもの（薪能や菊花教室等）は廃止して、対象者の多い市民まつり（シルバーボランティアを大いに活用）に充ててはどうか。
- ・いろいろな工事があるが、予算を削減するために、事前にアイデアを出してできるだけ安い見積もりを出した業者に対して報奨を与えてはどうか。
- ・市の歳入を増やすことについて、市民の声を聴く機会をあってもいいのではないか。
- ・駅前再開発事業に93億円使うことに本当に効果があるのか。市民目線で考えられているのか。活性化は望むので、広く市民からの大きなアンケートを取る等知恵を出し合ってはどうか。
- ・私たちは5年前から明石市中心市街地活性化の消費者団体として、商工会議所で話し合いしてどれだけ頭を絞ったか。それで国に申請を出して、再開発の了承が出た。それに一所懸命頑張った1人である。だから、いろんな市民の人たちに後から反対とか言われすごく心配しているが、計画通りに進めてほしい。
- ・駅前再開発の話が出たが、西明石をどう思っているのか。駐車場もない。エレベーターも東側には何も無い。市内で一番さびれている。明石を一番住み良いまちにしたいと、力強く訴えておられましたが、新幹線の停まる西明石をどう考えておられるのか。明石も大事だが、西明石があってこそ初めて栄えるんじゃないか。
- ・箱物の公共施設は必要性が少ないと思われる。
- ・JRの新駅は絶対に作らないでほしい。市の負担が大きく効率が悪すぎる。箱物づくりは一切なし。
- ・市バス民間移譲後の、バス車両修理費用や車庫地跡の活用予定を知りたい。
- ・懇談会資料に記載の事業はぜいたくにあたることばかり。これだけの人数でも賛否があるわけで、市全体で考えると到底まとめることはできないと思う。市長始め市職員の方にはいろんな意見があるので、市民からたたかれることもあると思うが、ここは我慢してくれ、でも、市が立ち直ったときには、こうしてあげられるからと、もっとリーダーシップを出して欲しい。

- ・市役所の方や小学校の校長先生がコミセンに天下りしているが、その人たちはボランティアか、それとも給料をもらっているのか。もらっているのなら、私たちにさせてほしい。私は幼稚園や保育園にボランティアで手伝いに行っているが、コミセンの人数を半分に、ボランティアでいけば、その分の給料が浮く。
- ・むだ使いをなくし、皆が公平に利益を享受できるようにしてほしい。
- ・近い将来発生する東南海地震に備えて、市庁舎の移転をすべきだと思う。そのための基金を保存すべきだと思う。
- ・高齢化により税収はさらに減る。高齢者が辛抱して、若い世代に予算を回していく必要がある。
- ・高齢者福祉対策は行政的には何を目的にしているのか。例えば敬老会でたった1日長寿を祝福してもらってもうれしくない。それぞれの施策がどういう目的で、どういう効果があるか。効果の測定は難しいと思うが、こういう小さい事業をいっぱいやっては、市長の選挙の事前運動みたいな格好になってしまうのではと思う。
- ・敬老金や老年クラブ、薪能などは、個人の楽しみのような事業。市が赤字を抱えているということを自分の家がこれだけ赤字だったらどうするかに置き換えてもっと真剣に考えてほしい。
- ・これから高齢者はどんどん増える。高齢者の経験、知恵は素晴らしい。若い人と高齢者をつなぐ何かがあれば、もう少し楽しい元気な街になっていくのではないかな。
- ・今の高齢者は金銭的に余裕のある人が大勢いるので、できるだけ自力で治療・介護を受けて欲しい。（所得・資産に応じて。）
- ・懇談会に参加される方は、元気な人ばかり。そういう方を対象にして賛成や反対と聞くのは少し難しいと思う。本当の必要な人のことはわからないし、そこに聞かないと問題解決にならない。その辺を斟酌しないと空論になってしまうと思う。
- ・年金、住民税、健康保険、介護保険等に関する周知は広報等で行われているが、高齢者への情報伝達が確実に行われているとは言い難い。何か工夫が必要と思われるが、市役所のテーマの一つとして取り組んで欲しい。
- ・高齢者支援（70歳→65歳）の充実拡大を図る。
- ・少子高齢化が進行中であり、これから市税が大幅に減少するため、今回の資料にある様な中身を全てについて検討する「第三者の会」の様な組織を作り早急に見直しを行う。
- ・生活保護者の家庭や受給条件の調査をもっとくわしくしてはどうか。ぜいたくしている人が多い。年金受給者の方が仕事している状況となっている。
- ・支出が収入を上回り財政が苦しいのに、福祉にバラマキ過ぎ。高齢者にとってはありがたいが、子ども達の将来が心配。また、豊かな生活に馴れてしまった若い人、努力、忍耐が足らず転職をくり返し自分に合った職がないからと生活保護を受けている。甘え過ぎだ。

- ・福祉予算について、高齢化での予算増は仕方ないというわけではなく、サービスを拡充・向上させながら、予算を減らすという方法もある。
- ・基金が底をつかないようにするためには、市負担額の大きいものから思い切った削減策を検討する必要がある。
- ・税金の未納者は近年たくさんいると思う。やっぱり市民だったら税金を納めて、市民の義務を果たさずゴネ得にならないように、目配りし、足を運んでほしい。
- ・市立明石商業高校の定員を半分にして、京都や西宮にあるような進学校を目指すか、定員全員を私立に移管するかを考える時期に来ていると思う。